

別記第1号様式

平成15年度事前評価調査書

機関名 アイヌ民族文化研究センター

整理番号	1	研究課題名	カムイとアイヌの相互交渉に関する調査研究				
事業区分	重点領域・一般試験等 一般試験	研究区分	研究	試験	調査	分析	各種施策等との関連性
共同研究機関 (協力機関)	第3次北海道長期総合計画 大項目：だれもが安心して暮らせる住み良い社会を形成する。 中項目：アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重され地位の向上が図られる社会の実現 目 標：アイヌ文化の保存振興とアイヌの人たちに対する理解の促進						
研究期間及び 所要見込額(千円)	16年度～22年度	初年度	次年度	次々年度以降	全体所要額		
		( 437 )	( 560 )	( 1,974 )	( 2,971 )		
研究の概要		<p><b>研究背景</b> アイヌの伝統的な考えでは、アイヌ(人間)が人間の世界で生きていくためには様々なカムイ(神)の加護の必要があり、カムイの側もアイヌに祭られることで神の世界での充足した生活が保障されるので、必要に応じて互いに連絡を取り合うのであるとされている。このような場面は口承文芸の中に多く見られ、日常生活でも体験談として語られることもあった。こうしたカムイとアイヌの関係を詳しく知ることは、アイヌ文化を理解する上で重要であると考えられる。そのためには、アイヌとカムイの関係に関する様々な基礎的資料(口頭伝承、体験談その他各種の調査記録)の収集・整理と、アイヌ語・アイヌ文化に関する専門的知見に基づく分析が必要である。しかし今までの研究では、このような手続きが不十分なまま、概説にとどまるものや託宣などの特定の事象について論じることが多く、一般向けの概説書や副読本等の記述にも事実関係の誤りや偏った認識に基づくものが少なからず見られる。基礎的な資料の広範な調査に基づき、かつ専門的な分析に裏付けられたデータを提供していくことが必要である。</p> <p><b>研究目的</b> アイヌ文化において、カムイとアイヌの関係がどのように意識されているかについて、カムイからアイヌへのメッセージの伝わり方を通じて明らかにする。</p> <p><b>研究内容</b> 既存の文献・音声資料などから様々な事例を収集するとともに、新たに聴き取り調査を行い、比較検討を行う。</p> <p><b>年次別目標</b> 平成16～19年度：既存資料の分析と聴き取り調査による事例収集 平成20～21年度：データ整理と補足調査 平成22年度：調査・分析結果の取りまとめ</p> <p><b>研究計画の適切性</b> 既存資料が多数あり、かつ聴き取りの対象者が全道各地にいることから、計画期間や経費は妥当である。</p>					
研究の成果と活用策		<p><b>期待される成果</b> ・カムイとアイヌの関係を検討することで、生活に深く関わるアイヌの基本的な考え方を明らかにすることができる。 ・収集したデータは、アイヌの口承文芸や信仰に関する研究の基礎資料となる。 ・各地域における聴き取り調査で得た体験談等の資料は、地域史や生活史の基礎資料となる。</p> <p><b>実現の可能性</b> アイヌ語話者の高齢化はつとに指摘されており、アイヌの伝統的な生活体験者も減少しつつある中で、カムイとの相互交渉に関する体験や言い伝えを記憶している人がまだいると予測される。また、既存の資料にもこのような場面が多く見出せることから、計画に沿った資料の収集と分析が可能である。</p> <p><b>成果の活用策</b> ・蓄積したデータは、アイヌの信仰や口承文芸に関してより具体的な研究を展開する素材となり得る。 ・研究の成果は、アイヌ文化をより深く理解するための学習・研究の素材として活用できる。</p>					
道が取り組む必要性		<p>・アイヌの伝統的な考え方を調査する当研究は、道の政策として掲げる「アイヌ文化の保存振興及び理解の促進を図る」ために必要不可欠である。 ・信仰に関する口承文芸や体験談の取り扱いには、アイヌ語とアイヌ文化に対する専門的知見と高い信頼性が求められることから、これらの要件を兼ね備えた当研究センターで取り組むことにより、着実に研究を進めることができる。</p>					
【自己評価】	【意見】	(A)・B・C これまで踏み込んだ研究実績の少ない本研究は、カムイとアイヌの関係について明らかにするものであり、アイヌの信仰や口承文芸に関して具体的な研究を展開する素材となりうるなど、今後のアイヌ文化の学習や研究に大きく貢献することが期待できるので、研究に値する課題である。					
【総合評価】	【意見】	(A)・B・C カムイとアイヌの関係を調査・研究することによりアイヌの伝統的な生活文化の研究に成果を活用することができることから優先的に取り組むべきである。					

- (A) 重要な研究課題であり、優先的に取り組む必要がある
- (B) 有用な研究課題であり、できる限り早期に取り組む必要がある
- (C) 解決すべき問題等があり、なお検討していく必要がある

- (a) 極めて高い、適切である
- (b) 高い、概ね適切である
- (c) 低い、改善の余地がある